

能力開発施設を利用する配慮を要する受講者の就職支援について

- 石井 尚希（山形職業能力開発促進センター 受講者係）
 ○須藤 仁志（山形職業能力開発促進センター 就職相談員）
 高柳 裕子・桑原 博一・瀬戸 文善・鈴木 菜津美（山形職業能力開発促進センター）

1 はじめに

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構（以下「機構」という。）山形支部山形職業能力開発促進センター（以下「ポリテク山形」という。）は公共職業訓練の実施施設である。

機構は機械・電気・電子・建築分野等、企業での生産現場の実態に即したもののづくり分野を中心に3～7ヶ月の職業訓練を行っている。また、国のセーフティネットとして就職支援に力を入れており「精神疾患・発達障害のある者」、「それらが想起される行動特性のある者」について「配慮が必要な訓練受講者」（以下「配慮受講者」という。）として支援することとしている。

ここでは、ポリテク山形で取り組んできた「配慮受講者の支援」について報告する。

2 ポリテク山形の就職支援

(1) 就職支援体制

就職支援アドバイザー（以下「就職AD」という。）2名、就職相談員2名の4名体制で各科の職業訓練指導員とともに就職支援を行っている。就職ADはキャリアコンサルタントとして受講者のキャリア形成に係る相談を行うとともに、訓練科の担当を決めて担任と密に連絡を取りながら就職支援を行っている。就職相談員は窓口での相談の他、求人票の各科への配布や掲示、ホームページに掲載する求職情報の作成とそれによる指名求人の提供、企業説明会の実施などを中心に支援を行っている。

(2) 就職支援の方法

表1に示すとおり6ヶ月または7ヶ月の訓練期間と訓練修了後3ヶ月間、計9ヶ月～10ヶ月で就職支援を実施するが、受講者の就職活動の進捗に合わせた個別の支援に努めている。また、修了前の3ヶ月間は職業訓練指導員と就職AD、相談員、受講者係による就職支援ミーティングを毎月実施し、一人一人の訓練習得および就職活動の状況把握と必要な支援内容の確認を行っている。

3 ポリテク山形における配慮受講者に対する取り組み

(1) ポリテク山形における配慮受講者の現状

表2に入所者に占める配慮受講者の推移、表3に障害・病気のある者の内訳を示す。なお、ポリテク山形では、配慮受講者として「精神疾患・発達障害のあるもの」及び

「それらが想起される行動特性のあるもの」に加えて「身体障害他、難病のあるもの」を併せて支援を行っている。

表1 ポリテク山形の就職支援

入所後	支援内容
1ヶ月目	就職ADの面談 (前職までの棚卸、就職活動の相談)
2ヶ月目	就職ガイダンス1 (就職活動の進め方・応募書類準備・訓練の関連職種の確認等)
3ヶ月目	就職ガイダンス2 (面接練習等)
4ヶ月目	求職情報のHPでの発信 (希望職種、給与、勤務地、自己PRなど)
5ヶ月目	受講生の活動に合わせた支援
6ヶ月目	・企業への見学、条件緩和の調整
修了後	・無料職業紹介
3ヶ月間	・応募書類の作成、模擬面接

表2 入所者数・配慮受講者数の推移等（2024年6月30日現在）

年度	入所者数	配慮受講者		配慮受講者合計	配慮受講者			病状悪化退所者数	その他退所者数 (就職退所以外)	退所を除いた就職率
		障害・病気のある者	疑いがある者		入所者割合	就職者数	就職率			
R3	130人	15人	8人	23人	17.7%	17人	73.9%	3人	2人	94.4%
R4	176人	19人	3人	22人	12.5%	17人	77.3%	1人	1人	85.0%
R5	184人	16人	4人	20人	10.9%	10人	-	3人	0人	-

表3 障害・病気の内訳（2024年6月30日現在）

年度	うつ病	双極性障害	発達障害	統合失調症	パーソナリティ障害	不安症/ 適応障害/ パニック障害	てんかん	難病	その他精神疾患	身体障害他	合計
R3	2	3	3	2	1	1	1	0	0	2	15
R4	2	1	1	1	0	2	2	3	0	7	19
R5	4	1	3	1	1	3	0	2	1	0	15

(2) 配慮受講者の把握

配慮受講者は次の方法で把握している。

- ①受講申込書に「健康上の不安」として記載した者
- ②受講生緊急連絡票の「持病」として記載した者
- ③就職相談票に「就職する際の不安」として記載した者
- ④入所選考や就職に係る各種面談の中で開示した者
- ⑤各種面談や手続き場面、訓練受講場面等の観察

(3) 配慮受講者の就職支援

上記2の(2)の就職支援に加えて配慮受講者については次の支援を行なっている。

① 配慮受講者のための「初回面談」

作成している様式「障害・病気についての状況把握」の項目に従い、症状や受診状況、訓練受講に係る配慮事項の有無、前職までの仕事への影響等を配慮受講者に聴取し、

その内容を担当の職業訓練指導員及び就職支援担当者間で情報共有することについて承諾を得る。加えて、ポリテク山形が実施する配慮受講者に係る就職支援、障害者就労支援機関について説明する。

② 配慮受講者の訓練の継続と就職支援

ア 訓練受講の継続についての配慮

就職活動を進める前提として、体調管理・訓練受講の継続が重要である。そこで、体調不良による欠席・早退・遅刻がないか常に観察し、何かあれば声がけし、医務室の利用案内やその他の配慮を行う。例えば、聞こえにくい場合や集中力・注意力に問題がある場合に座席変更や発達障害の過集中の方に水分補給の促し、必要に応じてノイズキャンセリングイヤホンの使用許可などである。また、習得に問題がある場合にはその補習を行う。

イ 職種選択の再検討

ポリテク山形で職業訓練を実施する中で、その習得が困難であると発覚し、更に本人にも困り感がある場合、応募職種の再検討を行う。本人とともに経験した職種についての振り返りを行い、職場環境・通勤距離・勤務形態等について整理し、ハローワークの求人検索により希望の求人を探すよう支援する他、求人提供を行う。また、企業訪問を調整し、求める環境と合致する企業か否かについて自分で確認をするように勧めている。

ウ 障害者雇用に係る情報提供

障害者手帳を持つ配慮受講者または開示していないものの、障害があるという受講者のために求人コーナー（求人検索を行うパソコンの設置、就職活動に係る情報提供、応募書類の準備を行う場所としている）に障害者専用の求人票のファイルを設置する他、関係の支援機関についての情報を掲示している。

エ メンタルヘルスについての情報提供

受講者の中には、精神疾患の病状悪化による退所者や、ハラスメント被害などの職場の人間関係による離職が見受けられる。体調管理の方法や特性への気づき、就職後の定着のために就職支援のセミナーとして「職場における人間関係とメンタルヘルス」を実施している。また、求人コーナーの掲示板にセルフケア、アサーション、アンガーコントロール、認知行動療法、発達障害などの資料の掲示を行っている。

オ 専門機関との連携による支援

専門機関と連携し、以下の支援に繋げている。

(ア) 障害者・就業生活支援センター

障害を開示して就職活動を行う配慮受講者について、応募の際からの支援と就職後の定着支援、障害者手帳取得の支援などを依頼している。

(イ) 山形障害者職業センター

職業評価による応募職種の再検討、障害特性を整理する支援などを依頼している。

(ウ) ハローワーク専門援助部門

障害者雇用、援護制度を活用した就職を希望する場合の紹介状の発行などを依頼している。

カ 困り感がなく不採用を繰り返す配慮受講者の支援

困り感がなく不採用を繰り返す配慮受講者（非開示で就職活動を行う者、発達障害が疑われる者）については、企業見学の調整、面接練習を繰り返して実施する。

当該企業が、ポリテク山形による紹介状の発行先であれば、採用担当者に不採用理由を確認して本人に伝えることもある。この不採用は面接時の受け答えに対する違和感や不安感が理由となる場合が多い。面接対策として、面接練習時に撮影した動画を本人と確認し、応答内容に加えて、応答時間や姿勢、視線の向け方などについて一緒に確認して改善を促すなどの支援を行う。

(4) 配慮受講者の就職支援の実績

以上の配慮受講者に対する就職支援を行った結果、配慮受講者の退所者を除く就職率は、令和3年度94.4%、令和4年度85.0%、正社員就職率は令和3年度、令和4年度共に64.7%、受講した訓練と関連する就職は令和3年度52.9%、令和4年度58.8%であった。

令和3年～令和5年のポリテク山形全体の就職率の平均は85.2%、正社員就職率は62.6%、訓練と関連した就職率は59.3%であり、ポリテク山形の取組の成果を確認することができた。

4 おわりに

訓練習得などで課題が見つかるものの、本人に自覚がない場合がある。その場合には支援が難しく、他の配慮受講者と同様の支援では採用が見込めないと思われる。よりきめ細やかな支援を行うため、障害者職業総合センターの成果物を参考に、簡易版のアセスメントシートを作成した。今後このような事例には、観察によるアセスメントを行い、特性への気づきを促すことや補習の実施・職種の再検討など、支援の手がかりを見つけないこととしたい。

職業訓練の現場には、障害や病気以外の生活課題のある方（生活困窮者、ひとり親家庭の父母、職業ブランクの長い方など）も多く受講している。個別の事例に合わせた丁寧な支援を行うことで多くの利用者に貢献したい。

【参考文献】

- 1) 障害者職業総合センター『就労支援のためのアセスメントシート活用の手引き』，(2023)